
従妹の殺人

なうさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

従妹の殺人

【Nコード】

N2087Y

【作者名】

なうさん

【あらすじ】

夏休み、かわいい従妹が人を殺すところを僕は見てしまった。悲劇はそこから始まった。

待ちに待った夏休み、僕は叔父叔母の家に泊まりに行った。

目当ては僕の従妹の紗耶香だ。

僕には妹がいなかったので、紗耶香を妹のようにかわいがった。

いつしかそれが恋愛感情に変わり、紗耶香のことが1人の女の子として好きになってしまった。

紗耶香ももう中学3年生。随分大人びてきて、異性を気にしだしてきたようで、僕にも少し警戒心を持ち始めていた。

今までのようにベタベタとくっついて遊んだりできなくなり、少し寂しい気がしていた。

事件は僕が紗耶香の家に泊まりに来ている時に起きた。

紗耶香の家の近くの公園で、1人の少女の死体が見つかった。

少女はロープのようなもので首を絞められて殺されており、服が破かれていた。

警察はストーカーによる犯行だと断定した。

最近、変質者やストーカーの被害が急増していたことや、服が破かれているところから見て、レイプ中に抵抗したため殺害されたのではないかと思われた。

しかもその少女は警察にストーカーの相談をしていたのだ。

実はこの少女、紗耶香の同級生で親友の菜々美だった。

僕も菜々美のことはよく知っていたし、紗耶香に連れられてよく遊んだ。

僕がたまたま紗耶香の家に遊びに来ているときにちょうどこんな事件が起こったものだから、僕はいたたまれなかった。

楽しい思い出を作るはずが、嫌な思い出だけが残ってしまうのか。

いや、この事件はこれから起こる悲劇の序章に過ぎなかった。

はっきりここで言ってしまう。

実はこの事件の犯人は紗耶香だったのだ。

なぜそんなことがわかったのか。何を隠そう、紗耶香が菜々美を殺しているところを、僕は見てしまったのだから。

僕はその夜、眠れないので散歩に出かけていた。

その途中、公園を通りかかると紗耶香が菜々美と話をしていた。

僕は電柱の影からこっそりとその様子を見ていた。

すると紗耶香はポケットからロープを取り出し、背後から菜々美の首を絞めたのだ。

僕は思わず携帯のムービーでその様子を撮った。

そしてついに紗耶香は菜々美を絞殺し、ハサミで菜々美の服を切り裂いた。

紗耶香はまわりに誰もいないか確認し、そのまま家に帰った。

僕は夢でも見ていたのか。

翌朝、鳴り響くサイレンの音で、それが現実であるとわかってしまった。

犯行は計画的だった。

変質者やストーカーが増えていることに目をつけた紗耶香は、彼らに罪をかぶせることを思いついた。

夜道を歩く菜々美の後をついたり、手紙を送りつけたのも、すべて紗耶香の仕業だ。

時には菜々美と夜に遊び、“さっきから誰か後ろにいない？”と怖がらせたりして、ストーカーに狙われていると思わせた。

思い通り菜々美は警察にストーカーの相談をした。

これでは殺すだけだった。

事件の夜、菜々美を公園に呼び出し、ロープで絞殺し、服を破ることでストーカーによるレイプに見せかけた。

見事な計画的犯行だ。完全犯罪だ。

しかし、ひとつだけ紗耶香はミスを犯していた。

それは、僕が紗耶香の家に泊まりに来ているときに菜々美を殺害したことだ。

僕さえ見ていなければ、すべてうまくいったのに。

でも僕はその夜のことは誰にも言わなかった。

もちろん紗耶香本人にもだ。

紗耶香が捕まって、少年院で牢屋に入れられる姿を想像すると、その夜のことは自分の胸にしまっておくしかなかった。

自分の家に帰る日、帰りの電車の中で犯行時の動画を消去した。

これで証拠もなくなった。

これで紗耶香の完全犯罪は成立する。

こうすることがベストな選択だと僕は思った。

家に帰ってから数日後、インターホンが鳴る。

誰も答えないので、ドアを開けると、そこには紗耶香の姿があった。何をしに来たのだろう。

紗耶香を部屋に案内し、僕はキッチンでジュースをコップに注いだ。

その瞬間、背中に激痛が走った。

今まで感じたことのない激痛だ。

そして苦しかった。

何かが刺さったような感じがした。

ナイフだ。背中にナイフが刺さっている。

そしてそのナイフを持っているのは紗耶香だった。

紗耶香はナイフを一度抜いた。

「ど……どう……し……て……」

「口封じよ。」

なぜだ？なぜ僕があ夜の事件の目撃者であることを紗耶香は知っているのだ？

それを考える間もなく、紗耶香は僕の腹を刺した。
僕は紗耶香に殺された。

実はあの夜、僕は紗耶香に見られていた。

僕が見ているのをわかっていて紗耶香は菜々美を殺したのだ。

僕なら誰にも口外しないと信じていたらしく、すぐに僕を殺さなかった。

でも気が変わったらしい。

だから僕を口封じのために殺した。

そう言えばこの間の動画、消去したのだが、SDカードにコピーした分も消すのを忘れていた。

だからSDカードにはまだ証拠が残っている。

警察はそれを見てしまった。

こうして紗耶香の完全犯罪は崩れ去った。

紗耶香は逮捕されてしまった。

こんなことになるんだったら、すぐに警察に紗耶香の犯行を話すべきだった。

そうすれば、僕も死なずに済んだし、紗耶香も二人も人を殺さずに済んだのに。

あの世で後悔する僕であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2087y/>

従妹の殺人

2011年11月4日10時15分発行